

みんなが遊べる、みんなで育てる  
都市公園の遊び場づくり参考事例集

令和6(2024)年4月

国土交通省 都市局 公園緑地・景観課

# 目次

1. はじめに	1
2. 目指す遊び場の姿	2
2-1 目指す遊び場の姿	2
2-2 遊び場づくりのステップ	3
3. 参考事例	5
■国内事例	
(1) 遊び場を継続して改善している事例 (国営昭和記念公園)	6
(2) 利用者の立場に立ったバリアフリー情報提供の事例 (国営海の中道海浜公園)	8
(3) 当事者・管理者・遊び場の専門家とともに遊び場をつくり、育てている事例 (砧公園)	10
(4) 遊び場の計画からこどもが参画した事例 (大井坂下公園)	14
(5) 当事者団体と意見交換を積み重ねて整備した事例 (平塚市総合公園)	18
(6) 整備後の継続的な利用促進に取り組んでいる事例 (富山県空港スポーツ緑地)	22
(7) 福祉部局の知見を活用して整備した事例 (インクルーシブ・プレイグラウンドのみ)	24
(8) 市民団体・小学校とともに取り組む遊び場づくりの事例 (朝熊山麓公園・大仏山公園)	26
■海外事例	
(1) アクセス性に配慮したデザインで遊び場を再整備した事例 (Gabriel Park Playground)	28
(2) こどもの遊びに関する団体と連携し、こどもを含む多様な関係者の参画を得て整備した事例 (Tuen Mun Park Children's Playground)	30
(3) すべての人を歓迎する遊び場で多様な地域住民の交流が図られている事例 (Magical Bridge Playground Palo Alto)	32
■インタビュー	34
■参考資料等	36

# 1. はじめに

我が国が平成 6(1994)年に批准した「児童の権利に関する条約」では、こどもの権利として遊びの権利が認められており、令和 4(2022)年に成立した「こども基本法」においても、児童の権利に関する条約の精神にのっとり、こども施策を総合的に推進することとされている。

こどもにとって遊びは楽しさをもたらすものであるとともに健やかな成長の原点であり、遊びを通じて様々な体験をすることで、身体的、精神的、社会的な成長につながるなど、遊びはすべてのこどもにとって必要不可欠なものである。

都市公園の遊び場は、こどもに遊びの機会を提供しており、こどもの成長を支える役割の一端を担っている。本来、都市公園の遊び場は、こどもの能力や特性、背景などにかかわらず、あらゆるこどもに開かれたものであるが、一方で、障害のあるこどもやその家族などからは、物理的・心理的障壁により、都市公園の遊び場で遊ぶことへの難しさや負担を感じるといった声もよせられている。こうした背景から、近年、都市公園において、だれもが遊べるいわゆるインクルーシブな遊び場の整備が進められている。

また、こども政策を総合的に推進するため策定された「こども大綱」(令和5年 12 月 22 日閣議決定)では、こども施策の基本的な方針の一つとして、「こどもや若者、子育て当事者の視点を尊重し、その意見を聴き、対話しながら、ともに進めていく」としている。「幼児期までのこどもの育ちに係る基本的なビジョン(はじめの 100 か月の育ちビジョン)」(令和5年 12 月 22 日閣議決定)においても、「障害児については、他のこどもと異なる特別なこどもと考えるべきではなく、一人一人多様な育ちがある中で個々のニーズに応じた丁寧な支援が必要なこどもと捉えることが大切であり、障害の有無で線引きせず、すべてのこどもの多様な育ちに応じた支援ニーズの中で捉えるべきである。また、心身の状況にかかわらずひとしく育ちを保障するために、周囲の環境(社会)を整える視点も重要である。」と言及されている。

都市公園の遊び場において、だれもが楽しく遊べるためには、こどもをはじめとした多様な主体に意見を聴き、遊び場づくりを共に進めていくことが重要である。今回、いわゆるインクルーシブな遊び場等の取組事例について、参考となる国内や海外の事例をふまえ、『みんなが遊べる、みんなで育てる都市公園の遊び場づくり事例集』としてとりまとめた。

遊び場の整備などハード面だけではなく、整備に至るプロセスや、遊び場整備後の管理運営・利用促進にも留意することが重要であり、本事例集を参考に各公園管理者が遊び場づくりに積極的に取り組み、都市公園の遊び場が一層充実していくことを期待する。

## 2. 目指す遊び場の姿

### 2-1 目指す遊び場の姿

都市公園の遊び場は本来、こどもの能力や特性、背景などにかかわらず、あらゆるこどもに開かれたものであることをふまえ、いわゆるインクルーシブな遊び場をつくるにあたって配慮すべき事項を以下のとおりとりまとめた。

#### (1) 誰もが楽しめる魅力的な遊び場

- 身体を使った遊び、感覚を使った遊び、自然遊び、創造的な遊びなど、遊びの要素が豊富である
- 冒険や挑戦を促し、こどもにとって魅力的な遊びができる
- 障害の有無などにかかわらず、こどもが自分にあった遊びを楽しめる
- ほかの利用者との自然な関わりが生まれやすい遊び場となっている

#### (2) 安全で居心地の良い遊び場

- 遊びの価値を尊重して、こどもの挑戦をうけとめるリスクが適切に管理され、こどもが予期できないハザードが除去されている
- こどもが安心してのびのびと遊べる居心地の良い環境が確保されている
- 遊びのサポートが必要な場合に、見守りや付き添いがしやすいよう配慮されている

#### (3) 誰もが利用しやすい遊び場

- 地域全体の遊び場の状況や多様な利用者のニーズ(アクセス等)を踏まえた立地となっている
- 遊び場が公園の駐車場や出入口から、利用しやすい位置にあり、円滑に移動できる
- 遊び場周辺の園路やトイレなどがバリアフリー化されている
- わかりやすい案内サイン等に加え、安心して公園に来ることができるようウェブサイトなどで事前の情報提供が行われている

#### (4) 地域と共につくり、そだてる遊び場

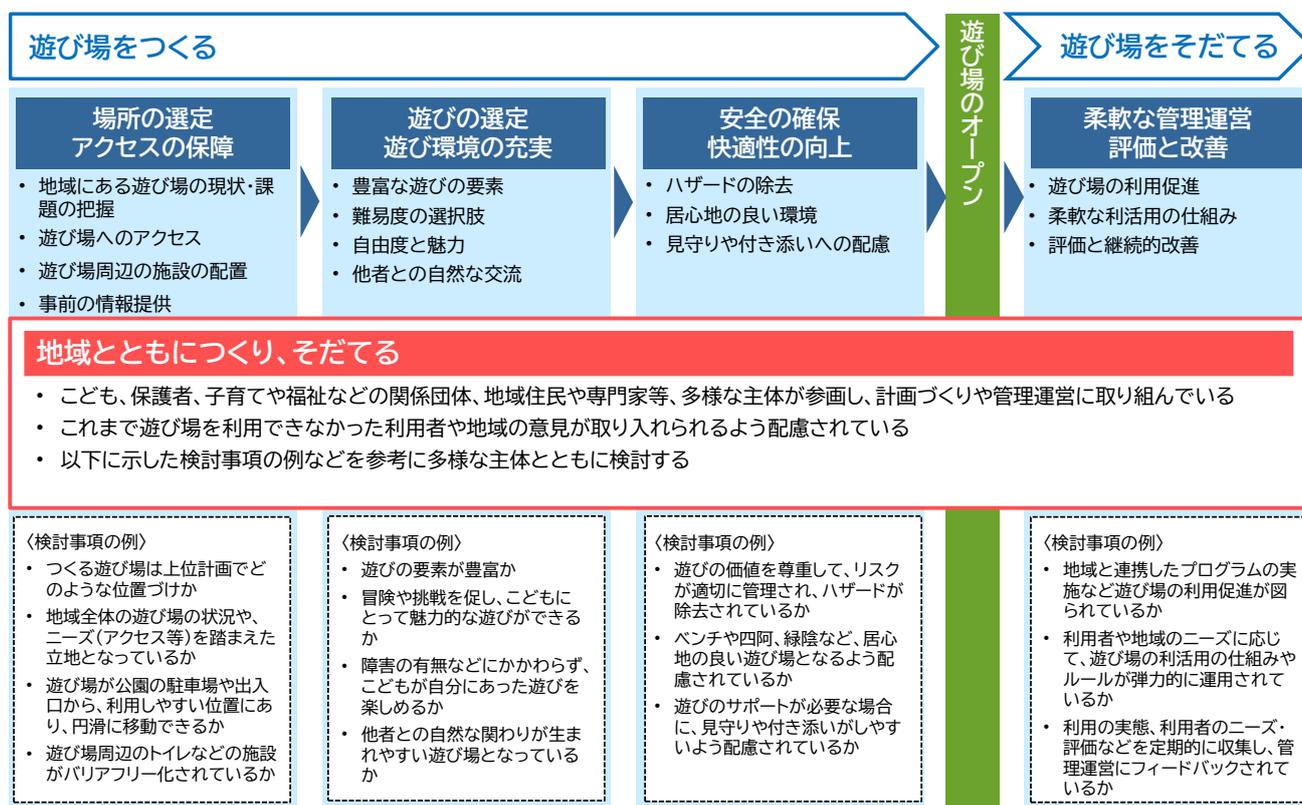
- こども、保護者、子育てや福祉などの関係団体、地域住民や専門家等、多様な主体が参画し、計画づくりや管理運営に取り組んでいる
- これまで遊び場を利用できなかった利用者や地域の意見が取り入れられるよう配慮されている
- 遊び場をきっかけに地域の交流が進み、こどもの育ちを地域全体で支える意識の醸成につながっている

## (5)柔軟に管理運営され、進歩していく遊び場

- 地域と連携したプログラムの実施など遊び場の利用促進が図られている
- 利用者や地域のニーズに応じて、遊び場の利活用の仕組みやルールが弾力的に運用されている
- より良い遊び場とするために、利用の実態、利用者のニーズ・評価などを定期的に収集し、管理運営にフィードバックされている

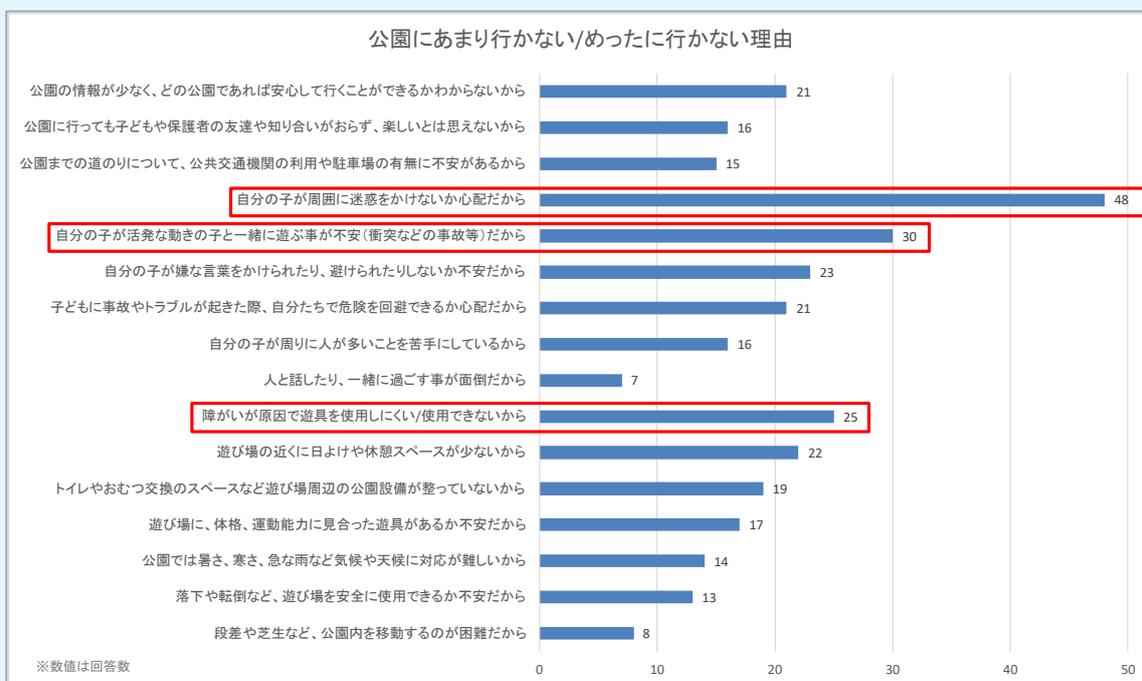
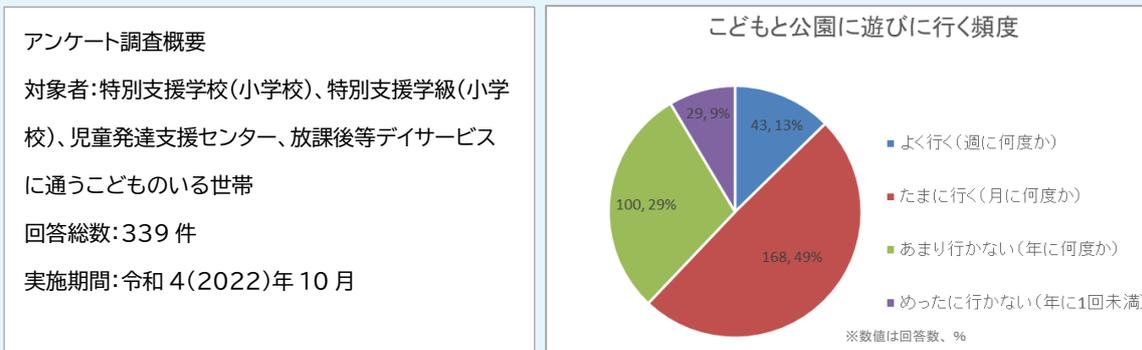
### 2-2 遊び場づくりのステップ

目指す遊び場の姿を実現していくにあたって、遊び場をつくるためのステップを整理した。計画段階から管理運営段階まで、遊び場の多様な主体が参画し、遊び場をつくり、そだてることが重要である。ステップごとの検討事項の例を記載しているが、多様な主体との検討を踏まえて具体的内容を決めることが望ましい。



## 【コラム】公園で遊ばない理由

福岡市が特別支援学校等に通うこどものいる世帯を対象に行ったアンケート調査によると、普段こどもとの程度の頻度で公園に遊びに行くかという質問では、約38%が「あまり行かない」、「めったに行かない」との回答であった。その理由としては、「自分の子が周囲に迷惑をかけないか心配だから」が最も高く、次いで「自分の子が活発な動きの子と一緒に遊ぶ事が不安(衝突などの事故等)だから」、「障がいが原因で遊具を使用しにくい/使用できないから」などであった。回答結果から、こどもと公園に行かないのは、物理的障壁以上に心理的障壁が影響を与えていることがうかがえる。



上記図表は「インクルーシブな子ども広場整備指針資料編」(福岡市)に掲載のアンケート結果から国土交通省作成

## 【参考】都市公園のバリアフリーについて

「移動等円滑化のために必要な特定公園施設の設置に関する基準を定める省令(平成18年国土交通省令第115号)」を定めたことを端緒に、全国でバリアフリー化が進んでいるが、依然としてバリアフリー化されていない都市公園も存在する。そのため、障がいのあるこどもが都市公園の遊び場を利用しようとしても、出入口が狭小で車椅子が通れない、園路に段差があり進めないなど遊び場に行くこと自体が困難であることや、遊び場に行けたとしても、遊べる遊具がないことやバリアフリートイレなどの周辺設備が整備されていないなどの障壁がある。「障害=バリア」は、社会(モノ、環境、人的環境等)と心身機能の障害があいまって作りだされているものであることを、『障害の社会モデル』といい、この「障害」を取り除き、また取り除くための手助けをして、差別を行わず、多様な人々とのコミュニケーションをする力を磨き、行動することが「心のバリアフリー」であり、目指す共生社会に求められている。

## 3. 参考事例

以降は、「目指す遊び場の姿」に向けた遊び場づくりに取り組むうえで、参考となる事例を掲載したものである。

掲載事例は、都市公園の遊び場で遊べない、遊びにくいこどもがいるといった現状を踏まえて、障害のあるこどもも含め、だれもが楽しめる遊び場づくりに資すると考えられる取組を主に選定している。

なお、事例には遊び場づくりにあたって、どの段階の取組事例として紹介しているかわかりやすいよう、便宜上、ページ右上に「つくる」「そだてる」として事例を大別しているので参考とされたい。

「つくる」事例・・・遊び場の新規整備や、既存の遊び場を改修する際に参考となる事例

「そだてる」事例・・・管理運営における取組や遊び場整備後の継続的な取組として参考となる事例

### 掲載事例

#### ■国内事例

- (1) 遊び場を継続して改善している事例 (国営昭和記念公園)
- (2) 利用者の立場に立ったバリアフリー情報提供の事例 (国営海の中道海浜公園)
- (3) 当事者・管理者・遊び場の専門家とともに遊び場をつくり、育てている事例 (砧公園)
- (4) 遊び場の計画からこどもが参画した事例 (大井坂下公園)
- (5) 当事者団体と意見交換を積み重ねて整備した事例 (平塚市総合公園)
- (6) 整備後の継続的な利用促進に取り組んでいる事例 (富山県空港スポーツ緑地)
- (7) 福祉部局の知見を活用して整備した事例 (インクルーシブ・プレイグラウンドのみ)
- (8) 市民団体・小学校とともに取り組む遊び場づくりの事例 (朝熊山麓公園・大仏山公園)

#### ■海外事例

- (1) アクセシ性に配慮したデザインで遊び場を再整備した事例 (Gabriel Park Playground)
- (2) こどもの遊びに関する団体と連携し、こどもを含む多様な関係者の参画を得て整備した事例 (Tuen Mun Park Children's Playground)
- (3) すべての人を歓迎する遊び場で多様な地域住民の交流が図られている事例 (Magical Bridge Playground Palo Alto)

## ■国内事例

### (1)遊び場を継続して改善している事例 (国営昭和記念公園)

つくる

そだてる



#### 1)遊び場の諸元

公園名	国営昭和記念公園	管理者	国
公園種別	国営公園	整備年度	1994 年度遊具設置／2003 年度改修 2012～2013 年度改修 2021 年度遊具一部更新
公園面積	約169.4ha	広場面積	—
主な遊具・施設等	● 複合遊具、ぶらんこ(椅子型・ハーネス付、バケツ型、平板型)、ローラー滑り台、築山(滑り台)、ふわふわドーム、どんぐりころころ(音が出る遊具)、砂場、どろんこ池、森の迷路 等 ● こどもシャワー、ベンチ、縁台		
その他	● 遊び場に近接してバリアフリートイレあり		

#### 2)背景

- 1994 年度に、小学生低学年程度までを対象に、車椅子に乗ったこどもが障害のないこどもと同様に遊べる複合遊具(わんぱくとりで)を設置。遊具には勾配約 1/15 のスロープがあり、車椅子でもアクセスできることが特徴であった。
- その後、1998 年度に策定された「国営昭和記念公園バリアフリー関連施設整備基本計画」をもとに、障害のあるこどもも障害のないこどもも共に、チャレンジ精神を鼓舞しながら遊ぶことが

可能な「みんなの遊具」を目指して、2003 年度に遊び場のリニューアルオープンを行い、以後、遊び場の継続的な改善に取り組んでいる。

### 3)当事者の参画・意見反映

- 2003 年度改修時には、計画・設計段階で、公園付近の特別支援学校※にヒアリングするとともに、筑波大学付属桐ヶ丘養護学校(現 筑波大学附属桐が丘特別支援学校)等の児童及び保護者を対象にワークショップを開催し、障害のあるこども等が求める遊具や遊びの要素等について意見を聴取した上で、車椅子に乗ったこどもも遊びやすいどろんこ池や体を支える力が弱いこどもが安全に乗れるブランコなどが整備された。
- 2012～2013 年度には、複合遊具(わんぱくとりで)のデッキスペース部を改修し、車椅子使用者のアクセシビリティの改善を図ったほか、周辺をゴムチップ舗装にするなどの改修を実施。

※ 東京都立立川養護学校(知的障害。現 都立武蔵台学園)、小平養護学校(肢体不自由。現 都立小平特別支援学校)、社会福祉法人 賀川学園(福祉型児童発達支援センター)専門家の意見反映



①2012～2013 年度改修で整備した車椅子のまま乗れるスイング遊具



②どろんこ池の近くにあるこどもシャワー。広めのブースにはベンチがあり、座って利用することもできる



③2代目の複合遊具。車椅子でアプローチ可能な遊具の出入口は2カ所。一番高いデッキまでスロープでアクセスでき、滑り台で滑り降りて遊べる



④植栽でつくった「森の迷路」。こどもや車椅子の目線で探検しながら植物が楽しめる

### 4)取組のポイント

- 遊び場が整備された後も、障害のあるこどもも障害のないこどもも共に、チャレンジ精神を鼓舞しながら遊ぶことが可能な「みんなの遊具」を目指して、ワークショップなどで当事者の意見を反映した改修を実施するなど、遊び場の継続的な改善に取り組んでいる。

## (2)利用者の立場に立ったバリアフリー情報提供の事例 (国営海の中道海浜公園)

つくる

そだてる



### 1)遊び場の諸元

公園名	国営海の中道海浜公園	管理者	国
公園種別	国営公園	整備年度	1981 年度
公園面積	349.7ha	広場面積	—
主な遊具・施設等	● 迷路、遊べる噴水、水辺のトリム、じゃぶじゃぶ池、ちびっこ広場、複合遊具(モンキーアドベンチャー、スカイドルフィン、子供のとりで)、ふわふわドーム など		

### 2)背景

- 2006 年に「高齢者、障害者等の移動等の円滑化の促進に関する法律(バリアフリー法)」が施行されたことを契機に、海の中道海浜公園では、単に都市公園移動等円滑化基準に適合させるだけでなく、「すべての人」が楽しめる快適で使いやすい施設の在り方、広大な空間と多様な施設がある海の中道海浜公園における分かりやすい利用案内について再考すべきではないか、という問題意識のもと、当時としてはあまりなじみのなかった「ユニバーサルデザイン」の考え方に基づいて整備することにした。

### 3)ユニバーサルデザインの推進体制

- ユニバーサルデザインはすべての人が対象であり、当時はその基準も明確ではなかったため、配慮すべき視野が多岐に渡り、取組や進め方について慎重かつ丁寧に協議する必要があることから、幅広い視点を有する学識者・有識者等などで構成された「ユニバーサルデザイン検討委員会」(以下、委員会)を 2007 年度に設置し、本公園ならではのユニバーサルデザインとは何か、どのように進めていくべきかという検討を開始した。
- 2008 年度から委員会において、園内施設・プログラムの現状評価を行い、アクションプログラム(行動計画)について検討・策定した。

- アクションプログラムの設定にあたっては、実際に公園を利用する利用者の意見を優先すべきと考え、公園利用者、福祉団体、公園スタッフにアンケート調査を実施して、課題を抽出した。

#### 4)遊び場の情報提供

- アクションプログラムの取組項目の一つとして、WEB サイトによる情報提供の改善を行い、利用者が事前にできること、できないことがわかるよう情報提供を行っている。そこでは、車椅子利用者、肢体不自由者、視覚障害者、聴覚障害者、妊婦・幼児連れへ、園内各施設の利用目安とともに、個別にバリアフリー情報、トイレ・休憩場所情報、サポートの有無、利用制限の有無に関する情報を提供している。

#### 5)取組のポイント

- 園内各施設について、施設の写真を掲載するとともに障害特性に応じた利用の目安やバリアフリー情報、最寄入口や駐車場について情報提供することで、利用者が事前に必要な情報を得ることが可能となっている。

**トイレ**

各主要施設には、車いすをご利用の方や広いスペースが必要な方が利用できるバリアフリートイレを設置しています。『車いすのマーク』が目印です。

バリアフリートイレの一例

オストメイト対応トイレ

くじらぐも"ふわんポリン"

車いすをご利用の方	肢体不自由の方	視覚障がいの方	聴覚障がいの方	妊婦・幼児連れの方
○	○	○	◎	△

バリアフリー情報

- ・小さなドームに手摺りを設置しており、車いすより移動ができます。

トイレ・休憩場所情報

トイレ、バリアフリートイレ、授乳室、ベビーシート、AED、休憩所

- ・近くのワンダーシャトルには休憩所があります。
- ・授乳室はインフォメーションをご利用ください。
- ・AEDはワンダーワールド口に設置しています。

サポートの有無

- ・セルフプログラムです。

利用制限の有無

- ・小学生以下が対象の遊具です。
- ・小さなお子様や介助が必要なお子様には、付添者が一緒にご利用できます。

施設の詳しい情報はこちら >

施設概要

くじらぐも"ふわんポリン"は、空気で膨らませた真っ白な巨大トランポリン。お子様を見守る大人の方にゆったりと快適に過ごしていただくために、屋根付き休憩所（日よけ）も併設しています。

2基のうち1基は山の高さを1.7mにしており、3歳～6歳の小さなお子さまや体の不自由な方を対象としています。

体力に合わせて快適に遊ぶことができるユニバーサルデザインの遊具です。

設備

AED

設備アイコンの説明 >

施設情報

料金：無料（入園料別）  
利用対象：3～12歳

注意事項

- ・まわりに小さいお子様などがある場合がありますので、まわりには十分に気をつけて遊んで下さい。
- ・雨天時及び表面温度が高くなった場合は、利用を中止いたします。
- ・利用時間は、点検終了後～閉園時間の30分前までです。
- ・天候・季節によっては、開園と同時にご利用いただけない場合があります。

最寄入口 ワンダーワールド口

最寄駐車場 ワンダーワールド駐車場

WEB サイトは、モニタリング調査結果を受けて、スマートフォンにも対応。  
(左)バリアフリートイレの設備や様子が具体的にわかるよう、写真を掲載。  
(中)主要施設ごとに利用目安、バリアフリー情報、トイレ・休憩場所情報等について情報提供。  
(右)リンク先では、各施設・エリアの様子がわかる写真や設備、最寄入口、最寄駐車場等を情報提供

図: <https://uminaka-park.jp/>

### (3)当事者・管理者・遊び場の専門家とともに 遊び場をつくり、育てている事例(砧公園)

つくる

そだてる



#### 1)遊び場の諸元

公園名	砧公園	管理者	東京都
公園種別	広域公園	整備年度	2019年度
公園面積	39.2ha	広場面積	約0.32ha(約3,200㎡)
主な遊具・施設等	● 複合遊具、ぶらんこ(円盤型、椅子型・ハーネス付、平板型)、スプリングシーソー、回転動系遊具、シェルター遊具、楽器遊具、伝声管、パネル遊具(迷路など) ● パーゴラ(日除け付き)、ベンチ、縁台、野外卓		

#### 2)背景

- 東京都では、誰もが自分らしく輝くことのできるダイバーシティの実現に向けて、障害の有無等に関わらずあらゆる子どもたちが共に遊び楽しむことができる遊び場の整備に取り組んでいる。
- 障害のある子どもを育てる保護者の方々や支援する団体の方、ユニバーサルデザインに関する有識者等の意見を参考にしながら設計を行い、2020年3月、その第1号として砧公園にあった既存の遊び場を再整備し、「みんなのひろば」としてオープンした。

#### 3)当事者の参画・意見反映

- 整備に先立ち、2018年度より、様々な子どもの障害関係者、有識者にヒアリング・アンケートを行い、整備の考え方を整理した。具体的には、多様な障害の特徴を理解し、遊具広場に求められ

る要件を把握する必要があるため、肢体不自由や重症心身障害、ダウン症、知的障害、視覚障害、聴覚障害のあるこどもの関係者には対話による課題のヒアリング、発達障害のあるこどもの関係者には対面調査が困難であったため質問票によるアンケートを行い、その結果を踏まえて整備対象公園を選定、設計に反映させた。

- 設計に先立ち、車椅子利用者同行で現地調査を行い、整備対象地(既存の遊び場)とその周辺の課題を確認し、主園路の舗装の劣化や広場内のウッドチップにより通行がしにくい、既存ベンチの座面高に多様性がない、ベンチの配置が保護者の見守りに適さない等の課題があげられた。周辺施設もトイレ等に関する指摘があり、これら指摘事項を設計に反映させた。

#### 4)遊び場とその周辺の整備

- ヒアリング、アンケートの結果、障害の種類が異なっても、「体幹の弱さに対応した遊具」や、「介助者との使用」、「ハイハイできるクッション素材の舗装」、「迷子や飛び出し防止の囲い」等の共通する意見が得られた。また、遊び場以外にも、アクセスやトイレの施設内容などの共通意見もあり、それらを整備に反映させている。



①設置年数が新しく、人気の高い船形の複合遊具は、スロープを取り付ける改修を行い、新たな遊び場のシンボルとして再設置。車椅子でトップデッキに登ることができ、幅広の滑り台は介助者等と一緒に滑り降りて遊べる

#### 【遊び場の整備】

- 既存遊具は、いずれも車椅子での利用などユニバーサルデザイン対応でなかったため、老朽化した遊具は撤去、比較的新しい遊具は公園内の別の遊び場へ移設した。
- 遊具の設置に十分な広さが確保できるため、複合遊具のように1基で多様な遊び方ができる遊具や多くのこどもと一緒に楽しめる遊具を複数設置した。



②体を支える力が弱いこどもも遊べる遊具の一つとして、円盤型と椅子型・ハーネス付の着座部があるぶらんこを設置。特に円盤型は人気



③音が鳴るなど五感を使って遊べる遊具の一つとして、楽器遊具を設置。幼児向け(手前)と児童向け(奥)があり、背の高さで選べる



④ごっこ遊びの場やクールダウンスポットになるシェルター遊具。広場中心から少し離れた位置にある

## 【遊び場周辺の整備】

- 遊び場のみならず、快適に利用いただくため駐車場やトイレ、遊び場への園路も設計・施工に含み、遊び場の整備と同時にアクセスを改善した。

## 5)遊び場をそだてる取組

- 設計・施工のプロセスの中で、関係団体やNPOなどの専門家と何度も話し合いながら、多様な遊びができる広場整備だけでなく、その後の利用者の意識醸成を図ることも重視した。具体的には、遊び場のコンセプトを示した看板を設置、リーフレットを製作し、遊び場のコンセプトが利用者に伝わり続けるようにした。



⑤遊び場のコンセプト周知リーフレット

- 現地の管理者も十分にコンセプトを理解し、対応できるようにするため、障害のあることものの遊び場の活動を行っている一般社団法人に東京都が管理者支援を委託し、コンセプトを記載した説明書を作成、オープン前に管理者向け講習を実施した。
- オープン当日、利用者へのモニタリング調査を実施し(アンケート回答数 108、ヒアリング 28名)、特色ある遊具や多様な遊具があることなど遊び場について 9 割以上が好意的で、囲いやゴムチップ舗装によって安心して遊べるという意見、コンセプトに理解を示す意見、同様の遊び場をもっと増やして欲しいといった意見が多く寄せられた。一方、円盤型ぶらんこや船形の複合遊具などの人気遊具では混雑が起き、利用を諦めたという声や利用のされ方について安全性を懸念する意見など、今後の管理や整備に向けた課題が明らかになった。

- オープン後、指定管理者と障害のあることものの遊び場の活動を行っている一般社団法人がアンケートやヒアリングなどを行っている。把握した利用者の声に基づき、遊び場のコンセプト周知、利用者同士の理解促進のための冊子の発行・WEB サイトへの掲載、暑さ対策として日除けの設置、出入口の増設(2カ所→3カ所)、出入口の扉を弱視者(ロービジョン)が分かりやすい色に塗装、公園や遊び場の情報がわかる掲示板の設置など改善の取組を行っている。



⑥アンケート結果に基づき作成したコンセプト周知、理解促進用の冊子。冊子はWEBサイトに掲載

- 障害のあるこどもとその家庭のなかには、これまで気軽に遊び場を利用することができていない方がいることから、指定管理者が地域の障害者支援団体や子育て支援団体、ボランティア等の協力を得ながら、遊び場に行くきっかけづくりの利用促進プログラムを実施している。

利用促進・普及啓発プログラム	内容など
アートワークショップ	● 手や足に直接絵の具をつけて絵を描く「ぬたくり」を実施。参加者130人のうち、障害があるこどもは約15～20%
あおぞら保護者会	● 同じような悩みを抱える保護者同士が悩みを相談したり、情報を共有する場として実施
花育イベント	● ペットボトルでじょうろを手作りし、ヒマワリの種まきと水やりをするイベント。車椅子でも作業が可能な高さにするなど工夫した。
ミニ写真展	● 遊び場のフェンスを利用して、多様なこどもたちが遊んでいる様子の写真を展示し、コンセプトを周知
見学会	● 障害者支援のための情報交換や遊び場の説明会を実施



⑦砧公園では、(a)遊び場内の遊具の種類・休憩施設、(b)トイレの場所と設備、(c)利用ルール等が分かるリーフレットをWebサイトに掲載。事前にどのような遊び場か、どのようなトイレがあるのか等がわかる

## 6) 取組のポイント

- 利用者への聞き取り調査を行い、明らかになった課題について、遊び場の利用者からアイデアを募集しながら改善を行っている。
- 関係者へのヒアリング・アンケートや把握した利用者の声から、障害のあるこどもとその家庭が気軽に遊び場へ足を運ぶには、整備後の利用者の意識の醸成や利用促進が重要と指摘されたことを踏まえ、利用者向けに理解促進のための冊子の発行、利用促進プログラムを実施している。

写真・図：①②③④ 「だれでもが遊べる児童遊具広場」整備ガイドライン、⑤東京都、⑥⑦ 砧公園 HP

## (4)遊び場の計画からこどもが参画した事例 (大井坂下公園)

つくる

そだてる



写真:品川区 HP

### 1)遊び場の諸元

公園名	大井坂下公園	管理者	東京都品川区
公園種別	街区公園	整備年度	2021年度
公園面積	0.23ha	広場面積	0.23ha (2,329 m <sup>2</sup> )
遊び場の 主な施設	<ul style="list-style-type: none"><li>複合遊具、ぶらんこ(円盤型、椅子型・ハーネス付、バケット型、平板型)、ロッキング遊具、鉄棒、砂場・テーブル型砂場、路上絵</li><li>トイレ、パーゴラ、ベンチ、クールダウンスペース</li></ul>		

### 2)背景

- 品川区の基本構想における「区民と区の協働で、私たちのまち品川区をつくる」という理念に基づき、2008年度に区の子どもたちによる新しい公園の計画案づくりを行い、その過程で生まれたアイデアを参考として公園整備に取り組んでいた。
- 当初の計画案づくりから10年が経過し、あらゆるこどもと一緒に遊べる公園のニーズが高まっていることから、2008年度のコンセプトを引継ぎつつワークショップを開催し、新たな公園の計画案を作ることで、あらゆるこどもたちが一緒に遊べる魅力ある公園を目指すこととした。

### 3)当事者の参画・意見反映

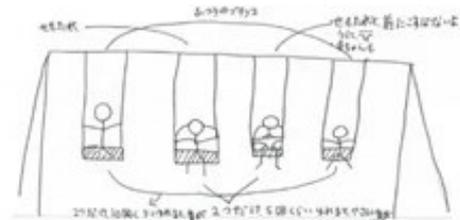
#### ① こどもを対象にしたワークショップの実施

- 区内の小学生3・4年生を対象にワークショップ参加者を募集したところ、定員 25 名のところに 65 名の応募があり、区民の関心の高さが伺えた。(定員を 30 名に増やし、抽選で決定)
- 障害のあるこどもにもワークショップに参加してもらうため、区内の特別支援学校や PTA の協力を得て、推薦された中学部 2 年の 2 名を加えた計 32 名をワークショップ参加者とした。
- ワークショップは合計6回実施し、こどもたちの集中力が継続しやすいよう 2 時間程度としたこと、意見が出やすい環境をつくるため 1 班の人数を 5、6 名として進行したこと、議論が発散しないよう毎回の目標設定をこどもたちと共有したこと、ワークショップ完了後は、各回の内容をかわら版としてまとめて参加者に配布するなどの工夫を行った。
- こどもたちが考えたアイデアは 80 個以上にのぼり、そのうち 31 個のアイデアを採用した。

開催日時	目標	実施内容
第 1 回ワークショップ 2019 年 10 月 27 日	<ul style="list-style-type: none"> <li>• お互いのことを知る</li> <li>• 発言しやすい雰囲気をつくる</li> <li>• 遊びのタイプを見つける</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 自己紹介</li> <li>• 普段の遊びを分類</li> </ul>
第 2 回ワークショップ 2019 年 11 月 17 日	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 人の多様性や多様なニーズがあることに気づく</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>• ニーズの〇×クイズ</li> <li>• 特別支援学校へのインタビュー</li> </ul>
第 3 回ワークショップ 2019 年 12 月 15 日	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 公園に含まれる様々な工夫に気づく</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 先行事例の公園での障害疑似体験</li> <li>• 気づいた工夫の意見交換</li> </ul>
第 4 回ワークショップ 2020 年 1 月 19 日	<ul style="list-style-type: none"> <li>• ユニバーサルデザインの観点を学ぶ</li> <li>• 遊び場づくりのポイントを学ぶ</li> <li>• アイデアを考える</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>• ポイント学習</li> <li>• 「遊び(遊具)」のアイデア出し</li> <li>• (アイデアカードの作成)</li> </ul>
第 5 回ワークショップ 2020 年 2 月 9 日	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 公園計画案の作成</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>• プレイグラウンドアイデアカードを基にした公園計画案の模型作成</li> </ul>
第 6 回ワークショップ 2020 年 7 月 19 日	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 成果の共有</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 計画案(模型)の発表</li> </ul>



アイデアイメージ  
(さわると音が鳴ったり、登り方が豊富な遊具)



アイデアイメージ  
(背もたれ付き等、種類が豊富なブランコ)

図：品川区報道発表資料より

## ② ワークショップ以外による当事者等の意見把握

- ワークショップ参加者以外の当事者・利用者の意見を把握するため、基本構想段階で児童発達支援事業所や特別支援学校の方々へのアンケート及びヒアリング、設計段階で公園利用者へのヒアリングを実施し、ワークショップで得られなかった遊具以外の施設に関するニーズや、こどもたちの特性の違いについて知見を得た。

## 4)遊び場の整備

- 施設の老朽化が進行し、改修の必要があった大井坂下公園をこどもたちのアイデアを活用した遊び場の第1号として再整備を行った。
- 地元から愛着のある施設や樹木は可能な限り残し、ワークショップで出されたこどもたちのアイデアを活かして遊具等の整備を行った。
- 改修の完成時には、ワークショップ参加者を対象にお披露目のイベントを開催し、モルタル塗りなどの工事体験やこどもたちのアイデアが取り込まれた新しい遊具の体験会が行われた。このイベントの後には、参加者に気になった点や改善が必要な点についてのアンケートを実施した。



①完成お披露目会では、工事体験会も実施



②こどもたちのアイデアを取り入れて、高さの違うテーブル型砂場を整備。車椅子に乗ったまま遊ぶ様子

## 5)取組のポイント

- 本事例では、計画段階から遊び場の主役である多様なこどもが参画したことやワークショップで視覚障害体験や車椅子体験を実施するなど、相互理解の推進、公園整備の当事者参加の推進が図られた。

## 【参考資料】

# こどもたちのアイデア等を活かした公園づくりワークショップ かわらばん no.1

## 子どもたちのアイデア等を活かした公園づくりワークショップ **かわらばん No.1**

第1回「子どもたちのアイデア等を活かした公園づくりワークショップ」をかいさいしました。区内の小学生26名が参加し、遊びマップをつくり、ふだんの遊びをふり返りました。

令和元年10月27日(日)  
10:00～12:15@品川区役所

### 1. 前回ワークショップのプログラム

9:30～受けつけ



受けつけで名札をもらい、あだ名を書きます。みんな少しきんちょう気味です

10:15～自こしょうかい



自こしょうかいでは、どんな遊びが好きか、みんなに伝えました。

10:55～遊びマップづくり



ふだんの遊びのグループ分けについて、グループごとに話し合いました。

11:40～遊びマップの発表



グループで話したことをみんなに発表しました。

### 2. みんなで自こしょうかいをしました！

大きなさいころを使って、グループごとに自こしょうかいをしました！始めはみんなきん張していましたが、だんだん楽しくなってきました。

さいころが転がるたびに少しドキドキ・・・？



なぜか1がよく出るさいころ！？

次はわたしのグループがあたりかな・・・？



### 3. 遊びマップをつくりました！

グループに分かれて、遊びマップをつくりました！みんなが好きな遊びを書き出し、「どんなところが好き？」「どんなところが楽しい？」などの理由を考え、遊びのなか間探しをしました。



あることを知ろう！」を目ひょうとして、とくべつしえん学校の先生にクイズ形式でインタビューをします。ふだん何気なく使っている公園にもたくさんの発見があるのかも・・・？

日時：11/17(日) 10時～12時ころ  
場所：品川区役所第二庁舎6階  
261・262会議室(前回と同じ部屋)

出典：<https://www.city.shinagawa.tokyo.jp/PC/kankyo/kankyo-park/20191121171643.html>

写真：①② 品川区 HP

## (5) 当事者団体と意見交換を積み重ねて整備した事例 (平塚市総合公園)

つくる

そだてる



### 1) 遊び場の諸元

公園名	平塚市総合公園	管理者	神奈川県平塚市
公園種別	総合公園	整備年度	2022年度
公園面積	30.3ha	広場面積	約0.32ha (約3,200m <sup>2</sup> )
主な遊具・施設等	<ul style="list-style-type: none"> <li>複合遊具、ぶらんこ(円盤型、椅子型・ハーネス付、バケット型)、回転遊具、スイング遊具、築山(地形遊び)、ミニハウス、楽器遊具、砂場・テーブル型砂場、芝生広場</li> <li>パーゴラ、縁台、野外卓、手洗場・水飲場</li> </ul>		
その他	<ul style="list-style-type: none"> <li>遊び場入口に近接してトイレ(親子トイレ、車椅子利用者用便房)あり</li> <li>遊び場整備に併せて駐車場に「障がい者優先枠」の増設、園路の改修等を行った</li> </ul>		

### 2) 背景

- 2020年7月に市制施行90周年記念事業の職員提案の募集があり、公園部局と福祉部局が共同でインクルーシブ遊具広場の整備を提案し、事業化が決定。2021年2月に庁内推進会議を設置し、本格的に整備に向けて検討を開始した。
- アイデア提案の原点は、平塚市障がい福祉計画策定時の一般アンケートにおいて、「障がいのある人とない人の相互理解、共生社会を作るには」という問いに対し、「幼少期から障がいのある児童や障がいのある人と自然に関わることでできる環境」という回答が最も多かったため。

### 3)当事者の参画・意見反映

- 職員だけでは見えないこと、気づかないこともあると考えて、当事者団体との議論、意見交換の場を設け、当事者の意見を聞きながら進めることにした。
- 当事者団体の意見聴取は、その時に決めたいこと(遊び場の整備場所、遊具、名称、理念サインの表示内容、運営など)に応じて適宜実施した。意見聴取の方法は、対面でのヒアリング、文書、メール等による意見照会を併用した。  
意見聴取した当事者団体は、障害者団体、特別支援学校(盲学校、ろう学校、支援学校)、障がい者自立支援協議会や公立・私立の幼稚園・保育園など計 112 団体を対象とした。
- 駐車場は、「障がい者優先枠」を増設するとともに、車両後部から乗降する場合に必要なスペースや園路へアクセスするためのスロープを設置した。
- 園路のバリアフリー化にあたっては、車椅子使用者の職員と現地を確認し、根上りや段差のある箇所を改修した。

### 4)遊び場の整備

- 障害の種類と程度に応じて、すべてのこどもが遊べるように意識し、例えば、視覚障害者も遊べる音の鳴る遊具や車椅子ごと乗れるスイング遊具を選定した。また、砂場はこども同士の交流が生まれやすいことから必須との意見が出され、設けることにした。
- 遊具の配置に当たっては、様々なこどもが交流できるよう、タイプの違う遊具が入り混じるようにゆとりをもって配置した。
- 自閉症などの場合、順番待ちをしている時に割り込まれるとパニックになることがあるため、順番待ちマークを設けることにした。一般的には足形マークだが、足のない人への配慮が議論になり、特別支援学校に意見を聴き、マル印を採用することにした。



①体を支える力が弱くても、砂場内のクッション系遊具で体を支えれば砂遊びができる。車椅子に乗ったまま遊べるテーブル型砂場もある



②回転系遊具は乗り降りのしやすさ、交流の度合いから外向きを選定。順番待ちマークを設置



③オリジナルデザインの築山は、当事者団体の意見を聞いて、ラインや傾斜を工夫



④気持ちを落ち着かせる場所として設けたミニハウス。ごっこ遊びやお絵描き等ができる仕掛けがある



⑤遊び場外周は、当事者団体と議論し、柵ではなく、互い違いにした低木植栽帯を設けて緩やかに囲うことにした



⑥遊び場に隣接する親子トイレ。本整備事業以前に、親子トイレ 1カ所新設、園内4カ所既存トイレのバリアフリー改修を実施

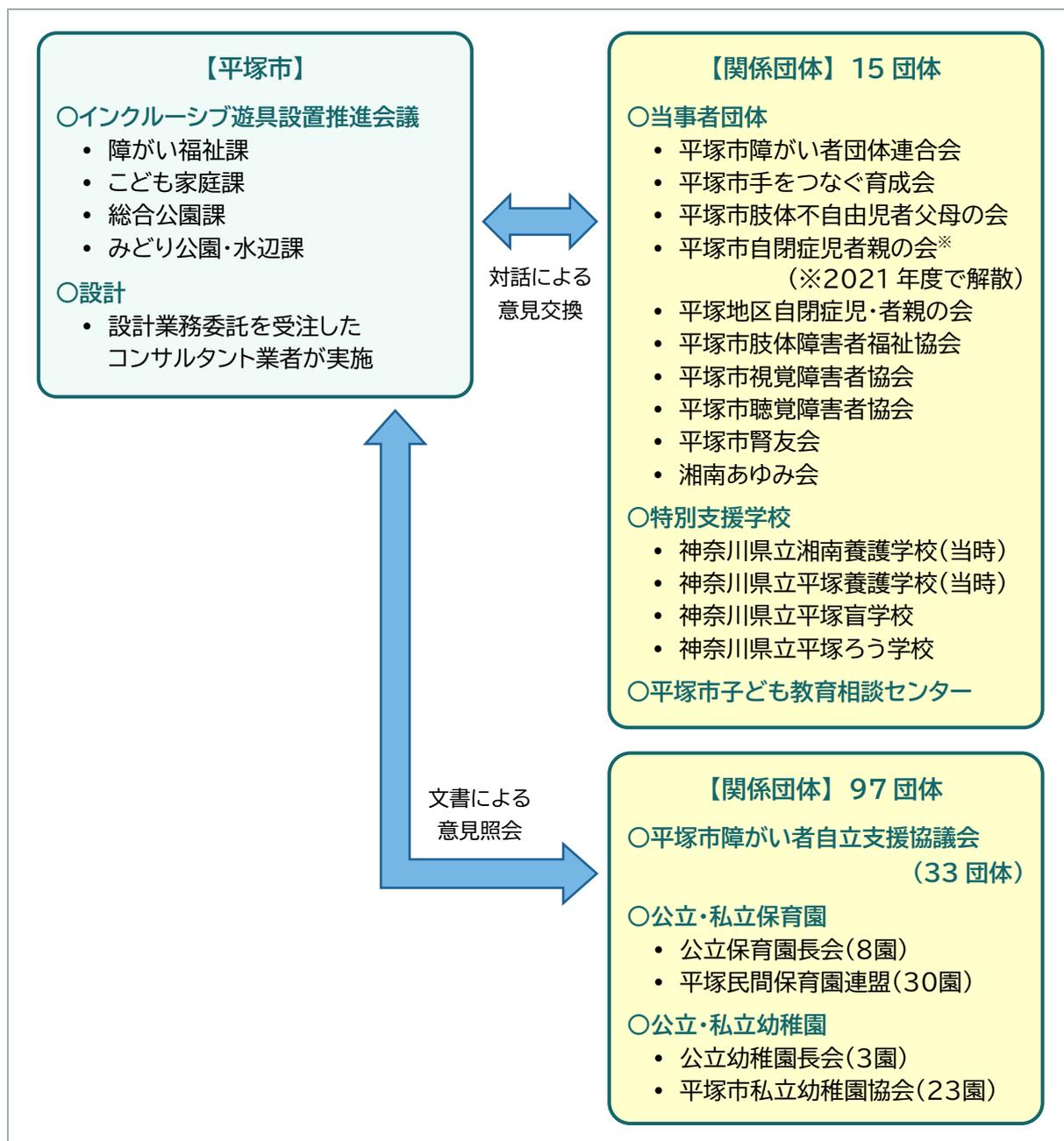


遊具配置図

出典：『「こどもクリニックさいとう」みんなの広場 インクルーシブ遊具広場のあゆみ』2023年3月、平塚市

## 5)取組のポイント

- 事業の提案段階から、福祉部局と共同で取り組んだことで、当事者団体の意見聴取先の決定などがスムーズに進んだ。
- 遊び場の整備場所の選定、遊具や遊具以外の施設の選定、設計上の工夫、遊び場の名称、サインの表示内容など、計画段階から多岐にわたり当事者団体と意見交換、意見聴取(ヒアリング、アンケート)を行うなど、当事者の意見を丁寧に聞き取って整備に反映させた。



### 検討の仕組み、体制

『『こどもクリニックさいとう』みんなの広場 インクルーシブ遊具広場のあゆみ』2023年3月、平塚市をもとに作成  
写真:①③④ 平塚市

## (6)整備後の継続的な利用促進に取り組んでいる事例 (富山県空港スポーツ緑地)

つくる

そだてる



写真:富山県

### 1)遊び場の諸元

公園名	富山県空港スポーツ緑地	管理者	富山県
公園種別	緩衝緑地	整備年度	2022年度
公園面積	13.2ha	広場面積	0.31ha (約 3,100㎡)
主な遊具・施設等	<ul style="list-style-type: none"> <li>複合遊具、ぶらんこ(椅子型・ハーネス付、幅広ネット型、平板型)、ロッキング遊具、回転動系遊具、パネル遊具、プレイハウス、テーブル型砂場</li> <li>手洗場・水飲場、ベンチ、四阿</li> </ul>		
その他	<ul style="list-style-type: none"> <li>遊び場に隣接して駐車場、近接してバリアフリートイレあり</li> </ul>		

### 2)背景

- すべての子どもが一緒に楽しめる「インクルーシブな遊び場」が、全国的に注目されるようになっていたことから、2021年度に公園管理者がサンドボックス予算※を使い、空港スポーツ緑地のゲートボール広場に期間限定で「インクルーシブな遊び場」に関する実証実験として遊具4基を試行で設置し、ニーズ等について調査・検証(利用者へのアンケート調査)を行った。
- 遊具は利用者から大変好評であったため、実証実験で得られたニーズや教育福祉関係者等の意見を取り入れ、2022年度に改めて広場を改修した。実証実験時に好評であった3つの遊具を中心に、周辺施設のバリアフリー化を含め、誰もが遊べる遊び場の整備を実施した。

※ 各部署の判断で必要な時期に現場の視点やアイデアを生かして活用できる特別予算枠

### 3)遊び場をそだてる取組

- 2023年3月の遊び場オープンに先立ち、利用頻度の高い近隣の小学校の全校児童約300名を対象に、遊び場のオープンとコンセプト周知を図るために、指定管理者が出前授業を実施した(協力:富山県都市計画課、富山県教育委員会)。
- 遊び場がオープンしてから3か月が経過した段階で、近隣に住むこどもたち、車で来園する家族連れ、保育園等の園外保育でも多く利用され、常になぎわいを見せている一方で、障害があるこどもの利用が少ないという状況が見えてきた。
- そこで、2023年7月、富山県が「みんながつかいやすいインクルーシブひろば会議」(以下「ひろば会議」)を開催し、地元小学校の校長や大学教員、支援者や遊具メーカー等、幅広い分野の専門家が集まって継続的に課題や対応策を検討している。
- 障害や発達の特徴などの理由で、公園に行きづらさを感じている方に気軽に来園してもらうための利用促進プログラムとして、定期的に「インクルーシブ DAY～遊びたいを叶える日～」を開催している。当日は遊び場にサポートスタッフが常駐し、障害の有無に関わらず、利用のサポートや他のこどもとの調整役を担うことで、保護者の心理的負担の軽減を図ろうとしている。
- 2023年度は、利用者からの意見・要望を踏まえて、遊び場近くのトイレについて、建替えにより機能充実(幼児用便器や大型ベッド、カームダウンルームの設置)を図っているところ。



①ひろば会議では、「インクルーシブに対する理解を、保護者や社会全体に広めていくことが大切」などの意見が出された



②インクルーシブ DAY は教育福祉関係者、学生等が運営に協力

### 4)取組のポイント

- 遊び場の整備後も、利用促進を図るため、継続的に課題や対応策について検討している。
- 遊び場にサポートスタッフが常駐する日を設け、公園に行きづらい、他のこどもと一緒に遊ぶのが不安な人でも遊びやすいよう工夫している。

写真:①②「みんなのインクルーシブな公園づくりガイドライン&事例集」プレイグラウンドセーフティネットワーク編

## (7)福祉部局の知見を活用して整備した事例 (インクルーシブ・プレイグラウンドのみ)

つくる

そだてる



写真:能美市

### 1)遊び場の諸元

公園名	インクルーシブ・プレイグラウンドのみ	管理者	石川県能美市
公園種別	近隣公園	整備年度	2022年度
公園面積	1.07ha	広場面積	0.79ha (7,929 m <sup>2</sup> )
主な遊具・施設等	● 複合遊具、ぶらんこ(椅子型・ハーネス付、平板型)、ドーム型遊具、築山、芝生広場 ● 休憩施設、ベンチ、バリアフリートイレ		

### 2)背景

- 市営の健康増進施設の移転により、跡地利用として公園化を構想。
- 公園整備にあたっては、旧施設の性格を引き継いで健康増進のための公園として整備することとし、2020年度に能美市が内閣府の「SDGs 未来都市」に選定され、地域共生社会づくりにも取り組んでいることから、「インクルーシブ(「仲間はずれにしない」「みんな一緒に)」」をコンセプトに、年代と属性に関係なく、より多くの市民が健康増進と交流を目的として利用できる公園を目指した。

### 3) 専門家の意見反映

- 遊具の選定、配置にあたっては、市の健康福祉部の児童発達の特任職員にヒアリングを実施し、設計に反映した。こどもの発達には四肢を使った遊びがよいといった専門職員の意見を踏まえ、高さの違う築山を5つ造成した。この築山を利用してゾーニングしたほか、ドーム型遊具などによりクールダウンしたり、一人になれる空間も準備した。

### 4) 遊び場の整備

- 同じ敷地内に先行して建替えられた健康増進施設と一体的に利用される公園を目指して整備。進んで身体づくりができる人、体力に自信がない人、みんなで遊びたい人、コミュニケーションが苦手な人など、多様な人たちが同じ環境で楽しく遊べる公園を目指した。
- 公園全体に死角になる場所を作らないよう、全体が見渡せるようにした。四阿に大人が腰掛けて見渡せるようにし、こどもをのびのびと遊ばせられるようにした。



① 専門職員の意見を踏まえてドーム型遊具(手前)、5つの築山(左手奥)を整備



② 様々な遊びや活動ができる芝生広場。能美市で盛んなグラウンドゴルフができるようになっており、多様な利用者の利用に繋がっている



③ 遊び場を見渡せる位置に四阿とバリアフリートイレを一体的に整備



④ 遊び場を囲む、再生瓦チップ舗装を施した約300mのウォーキングコース。幅広い年齢層の利用を呼び込む

### 5) 取組のポイント

- 児童発達の特任職員の助言を設計に反映させた。
- 遊具の整備だけでなく、四阿やトイレなども含む周辺施設全体で検討し整備している。

写真:①②③ 能美市 HP、④ 能美市

## (8)市民団体・小学校とともに取り組む遊び場づくりの事例 (朝熊山麓公園・大仏山公園)

つくる

そだてる



写真:「みんなのインクルーシブな公園づくりガイドライン&事例集」プレイグラウンドセーフティネットワーク編

### 1)遊び場の諸元

公園名	①朝熊山麓公園 ②大仏山公園	管理者	三重県伊勢市
公園種別	①運動公園 / ②総合公園	整備年度	①2022年度 / ②2023年度
公園面積	①約 32.5ha ②約 11.1ha	広場面積	①約 2.45ha(約 24,500 m <sup>2</sup> )芝生広場 ②約 0.2ha(約 2,200 m <sup>2</sup> )芝生広場
主な遊具・施設等	① <ul style="list-style-type: none"> <li>複合遊具、回転動系遊具、登はん運動系遊具、芝生広場、ベンチ、ぶらんこ、ターザンロープ</li> </ul> ② <ul style="list-style-type: none"> <li>複合遊具、ぶらんこ(円盤型、椅子型・ハーネス付き、平板型)、スプリング遊具、スプリングシーソー、芝生広場</li> <li>四阿、ベンチ、野外卓、手洗場・水飲場、障がい者用駐車スペース</li> </ul>		
その他	① <ul style="list-style-type: none"> <li>遊び場整備に併せてトイレの改修、障がい者用駐車スペースの整備を行った</li> </ul>		

### 2)背景

- 2021年度、障害のあるこどもの保護者から、インクルーシブな公園をつくってほしいという声が市に寄せられた。伊勢市では、共生社会の実現に向けた取組を行っており、同時期に整備中の公園があったことから、障害のあるこども・ないこども皆が楽しめる公園づくりを行っていく必要があると考え、検討を開始した。
- 2022～2023年度に「生まれこどもたち公園整備事業」として、こどもたちが集い、市民・来訪者を問わず多くの人を訪れ、交流の拠点となる公園を目指して、市の拠点となる既存公園(朝熊山麓公園、大仏山公園)において遊び場の整備を計画。2022年度の朝熊山麓公園の改修・整備にあたって、当事者等の参画・意見を反映して整備することにした。

### 3)当事者の参画・意見反映

#### ① 当事者の意見把握・市民団体との共創

- 2022年度は、朝熊山麓公園における遊び場改修・整備に向けて、障害のあるこどもの保護者が代表を務める市民団体「みんなの公園づくり隊ise」から意見聴取を行うだけでなく、同団体が主催したワークショップ(伊勢市後援。3回開催)に市担当部署が参加し、実際に市民の意見を把握した。ワークショップの参加対象に条件はなく、様々な属性の人の参加があった。ワークショップでは、ベンチの増設、既存トイレの明るさの確保、バリアフリートイレへの大型ベッドの設置、駐車場に障がい者用駐車区画の確保について意見が出され、整備の参考とした。
- 朝熊山麓公園の工事が進み、翌年度の大仏山公園の改修・整備が控えているなか、市立小学校3校で行われた「インクルーシブな公園を考える授業」に市民団体とともに市担当部署が参加した(2023年1~2月)。
- 2023年度は、大仏山公園の改修・整備にあたって、前年度の取組を踏まえて、市立小学校2校の「インクルーシブな公園を考える授業」で子どもたちにどのような公園だったらよいか、どのような遊具があるとよいか考えてもらい、新たに設置する遊具にその意見を取り入れた。

#### ② 市民の意見反映

- どのような遊具がよいか広く意見を把握するため、朝熊山麓公園、大仏山公園それぞれで市民アンケートを実施した。朝熊山麓公園(現地聞き取り、小学校2校・保育園3園に調査票配布、WEBアンケート、合計回答数:2,195件)、大仏山公園(WEBアンケート回答数:1,734件)。

### 4)取組のポイント

- 2022年度の取組を発展させて、2023年度に2カ所目の大仏山公園の改修・整備に取り組んでいる。大仏山公園の改修・整備にあたっては、市民団体や市立小学校と連携し、当事者である子どもたちに「みんなが一緒に遊べる遊具」について考えてもらい、遊び場の整備に反映させている。



①授業で子どもたちが考えた「みんなの公園」。他の人も一緒に楽しめる公園にするためにはどうすればよいか意見を出し合い、公園をデザインした



②大仏山公園の遊び場オープニングセレモニーで飾る横断幕を作成する市民団体主催のプログラム。気軽に参加できるプログラムを通じて、目指している遊び場や活動を周知

写真:① 伊勢市 HP、② 「みんなのインクルーシブな公園づくりガイドライン&事例集」プレイグラウンドセーフティネットワーク編

## ■海外事例

### (1)アクセシ性に配慮したデザインで 遊び場を再整備した事例(Gabriel Park Playground)

つくる

そだてる



写真:内山貞文氏撮影

#### 1)遊び場の諸元

公園名	Gabriel Park	所在地	米国・オレゴン州ポートランド
広場名	Gabriel Park Playground	整備年月	2022年5月
公園面積	約36ha	広場面積	約0.1ha(約930㎡)
主な参考情報	Gabriel Park Inclusive Playground Project <a href="https://www.portland.gov/parks/construction/gabriel-park-inclusive-playground-project">https://www.portland.gov/parks/construction/gabriel-park-inclusive-playground-project</a> Gabriel Park <a href="https://www.portland.gov/parks/gabriel-park">https://www.portland.gov/parks/gabriel-park</a>		

#### 2)背景

- Gabriel Parkの遊び場は、あらゆる能力の人が一緒に遊べるポートランド市南西地区の遊び場として、約300㎡から3倍の広さに拡張して再整備された。すべての子どもたちとその保護者の身体的、感覚的、社会的ニーズに対応して、豊かな遊び体験を提供し、アクセシビリティに配慮して設計されており、それぞれの発達レベルに合わせて遊びに挑戦することができる。

### 3)遊び場の特徴

- 地域住民、特別な支援が必要な障害のある大人、運動能力、認知能力、発達障害のあるこどもの親、近所の学齢期の子どもたちからなる関係者、地元の大学と協力して設計された。特注遊具と定番遊具を組み合わせた活動的な空間は、公園全体のデザインにも調和しており、街中の人々をこの遊び場に惹きつける要素となっている。
- Gabriel Park の新しい遊び場は、多様な能力の人々がアクセスして楽しめるよう、以下のような特徴を備えている。

#### 新しい遊び場のデザインに関する主な特徴

- すべての遊具へのアクセス可能なルート
- 協力遊びを促進するインクルーシブな回転系遊具
- あらゆる能力や年齢の人が楽しめるぶらんこ
- 遊び場全体に明るい色のゴム製の安全な設置面
- 様々な質感、視覚、聴覚に対応するインタラクティブな感覚パネル
- 個人と介助者が一緒に利用できる低くて幅広の滑り台、車椅子利用者向けに移乗用デッキを備えた高いチューブ滑り台が各1基
- 丘の斜面をよじ登るのに役立つ小さなゴム製のこぶ
- 創造的な遊びと交流を促進するクライミング・ウォールとクライミング・ドーム
- 感覚遊びと交流を目的としたインタラクティブな音遊びと水遊び
- 休憩できる腰掛けスペースと静かな場所
- 水飲み場と駐輪場を備えたバリアフリーのピクニックエリア
- 駐車場、バス停留所からのバリアフリー園路 など



①静かな遊びのエリア。ぶらんこや滑り台、クライミング遊具など動的な遊びのエリアと分けられている



②すべての遊具にアクセスできるルート設定

写真:①② 内山貞文氏撮影

## (2)こどもの遊びに関する団体と連携し、 こどもを含む多様な関係者の参画を得て整備した事例 (Tuen Mun Park Children's Playground)

つくる

そだてる



写真:左 智樂兒童遊樂協會(Playright Children's Play Association)、右 寺田光成氏撮影

### 1)遊び場の諸元

公園名	Tuen Mun Park	所在地	香港・新界
広場名	Children's Playground	整備年月	2018年12月
公園面積	12.5ha	広場面積	—
主な参考情報	<p>BLOG ARTICLES FROM FORMER SECRETARY FOR DEVELOPMENT, MR MICHAEL WONG</p> <p><a href="https://www.devb.gov.hk/en/home/my_blog/index_id_303.html">https://www.devb.gov.hk/en/home/my_blog/index_id_303.html</a></p> <p>Inclusive playground in Tuen Mun Park to open on December 3 (with photos)</p> <p><a href="https://www.info.gov.hk/gia/general/201811/29/P2018112900330.htm">https://www.info.gov.hk/gia/general/201811/29/P2018112900330.htm</a></p>		

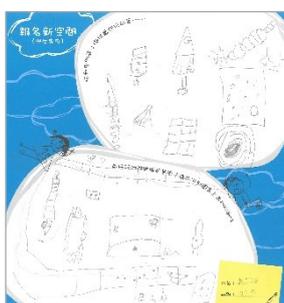
### 2)背景

- 本公園の「インクルーシブな遊び場」のデザインコンセプトは、2015年にこどもの遊びに関する団体 the Playright Children's Play Association (以下、PCPA)と国連児童基金香港委員会が共同で開催した「インクルーシブな遊び空間デザイン・アイデア・コンペティション」の受賞作品に基づいており、多様な関係者とのワークショップや対話によるパイロット事業として整備された。
- 設計プロセスでは、こどものニーズへの対応やコミュニティ参加の一環として、様々な分野から30人の関係者を招待したワークショップ、PCPAが主催するジュニア遊び場委員育成プログラムに参加した20人以上のこどもたちの意見を遊び場のレイアウトや遊びの要素の設計に反映した。

### 3)遊び場の特徴

- 改修された遊び場は、「水と砂」という2つの自然要素を設計に取り入れた、香港初のインクルーシブな遊び場である。

- 遊び場の全体的なレイアウトとその遊びの要素は、車椅子使用者を含む様々な年齢や身体能力を持つ子どもたちが、身体的遊び、感覚的遊び、社会的遊びなど様々な遊び体験を安全に楽しめるように設計されている。
- この遊び場は、敷地の高低差を活かした南・北の2つのゾーンで構成されており、北側ゾーンでは障害の有無にかかわらず遊べるよう、水遊びのエリア、起伏がありバランス感覚を養えるエリア、トランポリンや打楽器などの音を楽しむエリアがある。
- 南側ゾーンは、園内にある爬虫類館をイメージした「爬虫類の楽しみ」をデザインコンセプトに子どもたちの想像力や交流を目的に砂場やテーブル型砂場、さまざまな高さや難易度のクライミングタワーやクライミングネット、多様な滑り台で楽しむことができるほか、子どもたちの視覚と触覚に訴えかける、揺れたり回転したりする遊具などが設置されている。



①ジュニア遊び場委員によるスケッチ。地域の友達とどんな活動をしたか(上)、夢の遊び場(下)を共有した

②ジュニア遊び場委員が、香港政府のランドスケープアーキテクトにプレゼンをする様子

③遊び場の完成を喜ぶジュニア遊び場委員。手にしているのは、子どもたちが作ったアイデア模型。奥には、子どもたちがアイデアを提供したプレイウォール



④高さや難易度が異なるクライミングタワー、クライミングネット、ロープ登り、各種滑り台などがあるエリア。築山の各種滑り台は、出発部に行く方法もいろいろ

⑤光と影の演出が施された水遊び場



⑥砂場とレイズド砂場

⑦遊び場の一角にあるビオトープ。植物や水に触ることができる

⑧遊び場の触知案内図。マップ部分は半立体模型。点字だけでなく、墨字(中国語、英語)を併記

写真・図：①②③智樂兒童遊樂協會(Playright Children's Play Association)、④⑤⑥⑦⑧ 寺田光成氏撮影

### (3)すべての人を歓迎する遊び場で 多様な地域住民の交流が図られている事例 (Magical Bridge Playground Palo Alto)

つくる

そだてる



写真:Magical Bridge Foundation

#### 1)遊び場の諸元

公園名	Mitchell Park	所在地	米国・カリフォルニア州パロアルト
広場名	Magical Bridge Playground Palo Alto	整備年月	2015年4月
公園面積	約 8.6ha	広場面積	約 0.2ha(約 2,000 m <sup>2</sup> )
主な参考情報	<p><b>Magical Bridge Foundation</b>  <a href="https://www.magicalbridge.org/">https://www.magicalbridge.org/</a></p> <p><b>Magical Bridge Playground</b>  <a href="https://www.cityofpaloalto.org/Departments/Community-Services/Open-Space-Parks/Neighborhood-Parks/Mitchell-Park/Magical-Bridge-Playground">https://www.cityofpaloalto.org/Departments/Community-Services/Open-Space-Parks/Neighborhood-Parks/Mitchell-Park/Magical-Bridge-Playground</a></p> <p><b>みんなの公園プロジェクト:公園訪問 in パロアルト・アメリカ(前編・後編)</b>  <a href="https://www.minnanokoen.net/playground-abroad/playground-abroad-32/">https://www.minnanokoen.net/playground-abroad/playground-abroad-32/</a>  <a href="https://www.minnanokoen.net/playground-abroad/playground-abroad-33/">https://www.minnanokoen.net/playground-abroad/playground-abroad-33/</a></p>		

#### 2)背景

- Magical Bridge Playground Palo Alto(以下「Magical Bridge Playground」)は、インクルーシブな遊び場づくりの非営利団体 Magical Bridge Foundation が最初に手掛けた遊び場で、サンフランシスコ近郊パロアルト市内の Mitchell Park の一角にある。
- 障害のある次女の誕生をきっかけに、市内には能力や年齢が異なる子どもたちが一緒に遊べる公園がないことに気づいた地元の女性が、多様な利用者のニーズを反映した誰もが楽しめる遊び場の実現に向けて市に掛け合い、インクルーシブな遊びの専門家、教育者、セラピスト、当事者家族、ランドスケープアーキテクトらとともに調査や設計を進めて、地域住民の理解や協力も得ながら資金を調達し、7年かけて整備した。

### 3)遊び場の特徴

- “All Abilities, All Ages, All Welcome”(障害の有無を問わずどんな人も、何歳でも、みんなウェルカム)をスローガンに掲げ、車椅子利用者などのアクセスに関するニーズだけでなく、知的障害や発達障害、加齢に伴う変化も含めた幅広いニーズを考慮した工夫で、多世代の多様な人が遊びを通して健康とウェルネスの恩恵を受けられる施設や空間が目指されている。

### 4)遊び場をそだてる取組

- 地元の様々な有志によるイベントやプログラム(音楽やダンス、読み聞かせ、工作など)が提供され、あらゆる人が繰り返し訪れたい魅力づくりがされている。
- 中学生以上の地域住民が参加できるボランティア・プログラム「カインドネス・アンバサダー」には、障害者も含めて240人以上が登録している。カインドネス・アンバサダーは、団体の理念や活動への理解を深める講習を受けたのち、遊び場の見守り、公園内外で実施するプログラムの運営、情報発信のためのコンテンツ作成などを担い、インクルーシブなコミュニティづくりを支えている。



①登り降りの方法・難易度がいろいろな築山。自分に合った挑戦をしながら、誰もが同じ場所で楽しむことができる



②様々な乗り方・難易度の回転動系遊具が集められている「スピニング・ゾーン」。多様な利用者が理解しやすいよう、遊びのタイプごとにゾーニングしている



③アーティストが創作した24弦のレーザーハープがある「ミュージックゾーン」。ハープの下を通って梁から出ているレーザーを遮るとスピーカーから音が鳴る。楽器の演奏が難しい人でも音を奏でる体験ができる



④2階建てのプレイハウスはステージ付き。ごっこ遊びの舞台だけでなく、ボランティアたちがコンサートやパフォーマンス、遊びのプログラムを提供する拠点にもなっている

写真:①②③④ みーんなの公園プロジェクト

「いろいろな方の声を聞く、できることはすぐにやる」  
 — 遊び場オープン後の取組について、現地の管理者へのインタビュー —



**Q 都立砧公園「みんなのひろば」オープン後の取組をおしえてください**

**A** 砧公園サービスセンターは、砧公園全体の管理運営を行っており、「みんなのひろば」にスタッフが常駐しているわけではありません。「みんなのひろば」では、こどもの遊び場の活動を行っている団体に委託して年8回見学会やヒアリングを開催し、コンセプトや遊具の説明をしています。これまで当事者、大学の先生・学生、一般企業など、様々な方の参加がありました。ここで得られた皆さんの声や様子をまとめて、コンセプトを伝える冊子を作り配布しています。

このほか、サービスセンターでは、地域の支援団体やボランティアの協力を得ながら様々な普及啓発・利用促進プログラムを企画・運営しており、アートワークショップ、ヒマワリの種まき、ミニ写真展など誰でも楽しめるプログラム、同じような悩みを持つ保護者同士の情報共有、公園に来るきっかけづくりのあおぞら保護者会などを開催しています。2024年3月には、これまでのプログラムを発展させて「砧公園スペシャルデー」を開催します。参加者には、エリアマネジメント協議会等で繋がりがあがる地域の皆さんが取り持ってくれた団体もあります。こうした活動には費用がかかるので、予算獲得の手段を模索しています。

**Q 利用者の声から改善したことがあればおしえてください**

**A** こどもがぶつかると危ないので、金属製の公園灯に1mくらいの高さまで緩衝材を巻いていたのですが、保護者ご本人が視覚障害の方から「緩衝材の高さがもっとあると嬉しい」と聞き、その日のうちに対処しました。また、遊び場出入口の扉は、柵と同じ白色だったのですが、弱視者(ロービジョン)の声から青、緑、オレンジに塗装しました。「フェンスがあるので、入っていいか分からなかった」という声には、遊び心を加えて「0さいから300さいまでだれでもどうぞ」と出入口の扉に掲示しています。

**Q 最後に、これからみんなが遊べる遊び場づくりに取り組む皆さんに、メッセージをおねがいします**

**A** とにかくいろいろな方の声をきちんと聞いて、改善できることはすぐにやることです。管理者として申し上げると、管理者が無理にルールを作ったり押しつけがましいことを言って遊びの邪魔をしないようにすることが一番大事だと思います。とにかくいろいろなこどもたち同士が出会えるきっかけを作ってあげて、後は遊びに来た皆さんに遊び場の意義を感じたり考えていただければよいのではないかと思います。

**お話をうかがった方**

**砧公園サービスセンター**  
 (公益財団法人東京都公園協会)

東京都立砧公園の指定管理者として、管理運営を担っている。2019年度に地域住民、世田谷区等が参画する「エリアマネジメント協議会」を立ち上げ、地域と一体となった新たな公園マネジメントに取り組んでいる。

## 「公園はいろんな人がつながれる場所」 — 公園での活動を進める市民グループへのインタビュー —

### Q 活動のきっかけをおしえてください

- A 「障害のある子を含めた子育て」と「インクルーシブ保育」を実際に経験した事で、インクルーシブな環境が誰にとっても良いものだという実感がありました。一方、公園は障害のあるこどもは遊べない事があったり、障害のないこどもにとっても禁止事項が多く遊びにくかったり、また、年齢差があるきょうだいなどが一緒に遊ぶ場所が少なく、多様な人が楽しめる公園があればいいなと思っていました。そんな時に東京都立砧公園に「みんなのひろば」ができたことを知り、京都にインクルーシブな公園の整備を目指して活動をはじめました。実際にインクルーシブな公園ができるまでには時間がかかるので、まずはみんなで遊ぶ機会を作ろうと公園で遊ぶプログラムや勉強会など様々な活動を行っています。



### Q 活動をとおして「こうだったらいいな」とお考えになっている公園の姿をおしえてください

- A ユニバーサルデザインの遊具やスロープ、トイレの整備など「ハード面」が整うことで、今まで公園に行きにくかったこどもたちが行くことができ、新しい経験を積み重ね、自分の好きなことを選択できます。一方で発達障害のあるこどもたちは現状の遊具で遊べる人が多いですが、そこには目には見えない、本人や家族の困りごとがある場合があります。実はすごく身近にいるのに「知らない」ことが多いです。

物理的に公園に行けなかった人が行けるようになる、危険＝禁止ではなく、様々なチャレンジを楽しめる、誰もが「公園って楽しい！」と思って行ける、そんな公園だと良いなと思います。多様な人が自然と当たり前前に集まって、楽しい遊びの中からお互いを知るきっかけの場所になり、それが広がっていくような公園が理想です。また、このような公園がどこかの地域にだけあるのではなく、みんなの家の近所の公園がインクルーシブになることが理想です。そして、公園だけでなく、あらゆる場所がインクルーシブな場所になることが大切だと思います。



### Q 最後に、活動の場・遊ぶ場としての公園の魅力をおしえてください

- A まず、公園は「屋外」ということが良いところのひとつだと思います。季節や天気などの自然を楽しむことができます。また、「公園」は計画を立て、お金をかけて行く旅行やレジャー施設とは違って、日常の中にあるものです。気軽に思い立った時に、こども同士でも、家族でも、誰でも行ける場所だと思います。多様な人が集まって、つながりが生まれる場所ではないかと思っています。しかし、現状の公園では、「楽しい」よりも「大変」や「遊びにくい」と感じてしまうことがある人もいます。ミラスタ！のプログラムやイベントでは、「大変」や「遊びにくい」の部分を少しでも取り除けるように工夫して、今まで公園に行きにくかった人の物理的・心理的バリアを少しでも減らせると良いなと考えています。多様な人が公園に集まると、今まで出会った事がなかった人とも出会う事ができます。こども同士の関わりは本当に自然で、いろんな方法でコミュニケーションをとって遊びます。その様子から、私たち大人はたくさんの学びや感動をもらいます。こどもたちも新しい出会いや経験から、自然と大事なことを学んでいくのではないかと思います。

#### お話をうかがった方

#### ミラスタ！つながる“こうえん” プロジェクト (京都市)

2020年3月、公園管理者へのインクルーシブな公園の提案を皮切りに活動スタート。2020年12月、団体設立。これまで京都府立伏見港公園、京都府立山城総合運動公園にて公園で遊ぶプログラムやイベントを開催している。

写真：ミラスタ！つながる“こうえん”プロジェクト

## ■参考資料等

### 国営昭和記念公園

- 国営昭和記念公園事務所(2005):事例紹介 みんなが快適に利用できる公園づくり ―国営昭和記念公園の取り組み―:公園緑地 65(5), 31-34
- <https://www.minnanokoen.net/playground-japan/playground-japan-13/>

### 国営海の中道海浜公園

- <https://www.qsr.mlit.go.jp/uminaka/pdf/topics/ud-10.pdf>
- [https://www.qsr.mlit.go.jp/n-shiryo/kenkyu/program/05/5\\_16.pdf](https://www.qsr.mlit.go.jp/n-shiryo/kenkyu/program/05/5_16.pdf)
- <https://uminaka-park.jp/guide/universal/>
- <https://uminaka-park.jp/guide/universal-design/>

### 砧公園

- 東京都建設局公園緑地部公園建設課(2021):「だれもが遊べる児童遊具広場」整備ガイドライン
- 竹内智子, 菅原淳子(2021):砧公園「みんなのひろば」の整備:ランドスケープ研究 vol.84 増刊 技術報告集, 8-11
- 川崎 幹雄, 嶋村 仁志, 神林 俊一, 寺田 光成(2022):障がいの有無に関わらず遊ぶことのできる遊び場づくり―東京都立砧公園みんなのひろばの管理運営 :ランドスケープ研究 86(3), 230-231
- 照井進介(2023):砧公園「みんなのひろば」/府中の森公園「にじいろ広場」管理運営と課題:都市公園 239, 64-67
- <https://www.tokyo-park.or.jp/park/format/facilities004.html>

### 大井坂下公園

- <https://www.city.shinagawa.tokyo.jp/PC/kankyo/kankyo-park/20191121171643.html>
- <https://www.city.shinagawa.tokyo.jp/PC/shinagawaphotonews/shinagawaphotonews-2022/20220314182440.html>
- 神戸 美由起(2021):子どもたちのアイデア等を活かした公園づくり構想:建設コンサルタンツ協会誌 291, 20-23

### 平塚市総合公園

- 平塚市(2023):「こどもクリニックさいとう」みんなの広場 インクルーシブ遊具広場のあゆみ

### 富山県空港スポーツ緑地

- <https://www.pref.toyama.jp/documents/5458/toyama-no-toshikeikaku-no13.pdf>
- [https://www.pref.toyama.jp/1506/kendodukuri/toshikeikaku/kukakuseirikouen-tochi/202309\\_innkuru-sibukaigi.html](https://www.pref.toyama.jp/1506/kendodukuri/toshikeikaku/kukakuseirikouen-tochi/202309_innkuru-sibukaigi.html)
- <https://playgroundsafetynetwork.localinfo.jp>  
(プレイグラウンドセーフティネットワーク編「みんなのインクルーシブな公園づくりガイドライン&事例集」)

### インクルーシブ・プレイグラウンドのみ

- <https://www.city.nomi.ishikawa.jp/www/contents/1651309286534/index.html>

### 朝熊山麓公園・大仏山公園

- [https://www.city.ise.mie.jp/kurashi/douro\\_kasen\\_kouen/park/1014296/1015175/1015188/index.html](https://www.city.ise.mie.jp/kurashi/douro_kasen_kouen/park/1014296/1015175/1015188/index.html)
- [https://www.city.ise.mie.jp/kurashi/douro\\_kasen\\_kouen/park/1014296/1016005/1016006/1016008.html](https://www.city.ise.mie.jp/kurashi/douro_kasen_kouen/park/1014296/1016005/1016006/1016008.html)
- <https://playgroundsafetynetwork.localinfo.jp>  
(プレイグラウンドセーフティネットワーク編「みんなのインクルーシブな公園づくりガイドライン&事例集」)

### Gabriel Park Playground

- <https://www.portland.gov/parks/construction/gabriel-park-inclusive-playground-project>
- <https://www.portland.gov/parks/gabriel-park>
- <https://www.portland.gov/parks/news/2022/5/13/ppr-announces-upcoming-opening-new-more-inclusive-gabriel-park-playground>
- <https://www.portland.gov/parks/news/2021/3/2/portland-parks-recreation-begins-construction-new-more-inclusive-gabriel-park>

## Tuen Mun Park Children's Playground

- [https://www.devb.gov.hk/en/home/my\\_blog/index\\_id\\_303.html](https://www.devb.gov.hk/en/home/my_blog/index_id_303.html)
- <https://www.info.gov.hk/gia/general/201811/29/P2018112900330.htm>
- [https://civic-exchange.org/wp-content/uploads/2018/12/6\\_Tony-Mui-CS1-presentation.pdf](https://civic-exchange.org/wp-content/uploads/2018/12/6_Tony-Mui-CS1-presentation.pdf)
- [https://www.unicef.org/malaysia/media/2071/file/Best%20Business%20Practice:%20Inclusive%20Playground%20Toolkit%20\(FULL\).pdf](https://www.unicef.org/malaysia/media/2071/file/Best%20Business%20Practice:%20Inclusive%20Playground%20Toolkit%20(FULL).pdf)

## Magical Bridge Playground Palo Alto

- <https://www.magicalbridge.org/>
- <https://www.cityofpaloalto.org/Departments/Community-Services/Open-Space-Parks/Neighborhood-Parks/Mitchell-Park/Magical-Bridge-Playground>
- <https://www.minnanokoen.net/playground-abroad/playground-abroad-32/>
- <https://www.minnanokoen.net/playground-abroad/playground-abroad-33/>

## ミラスタ!つながる”こうえん”プロジェクト

- <https://mirasta2020.wixsite.com/inclusive>

## その他

- 国土交通省(2014):都市公園の遊具の安全確保に関する指針(改訂第2版)  
[https://www.mlit.go.jp/toshi/park/content/uuugu\\_data\\_shisin.pdf](https://www.mlit.go.jp/toshi/park/content/uuugu_data_shisin.pdf)
- 国土交通省(2022):都市公園の移動等円滑化整備ガイドライン【改訂第2版】  
<https://www.mlit.go.jp/toshi/park/content/001473665.pdf>
- 都市公園の柔軟な管理運営のあり方に関する検討会(2022):「都市公園の柔軟な管理運営のあり方に関する検討会」提言  
<https://www.mlit.go.jp/toshi/park/content/001519828.pdf>
- 東京都建設局公園緑地部公園建設課(2021):「だれもが遊べる児童遊具広場」整備ガイドライン  
[https://www.kensetsu.metro.tokyo.lg.jp/jigyo/park/tokyo\\_kouen/kouen0086.html](https://www.kensetsu.metro.tokyo.lg.jp/jigyo/park/tokyo_kouen/kouen0086.html)
- 福岡市(2023):インクルーシブな子ども広場整備指針  
<https://www.city.fukuoka.lg.jp/data/open/cnt/3/105583/1/seibisisinn.pdf?20240301170957>  
[https://www.city.fukuoka.lg.jp/data/open/cnt/3/105583/1/seibisisinn\\_siryoughenn.pdf?20240301170957](https://www.city.fukuoka.lg.jp/data/open/cnt/3/105583/1/seibisisinn_siryoughenn.pdf?20240301170957)

---

## (検討体制)

本事例集は、以下の有識者からなる検討会での議論を踏まえて作成したものである。

委員長	榑野 良明	公益財団法人 都市緑化機構 専務理事
委員	大坪 龍太	Playground Safety Network 代表
委員	菊池 健弥	一般社団法人 全国児童発達支援協議会 理事
委員	寺田 光成	日本体育大学子どもからだ研究所 助教
委員	松田 妙子	特定非営利活動法人 せたがや子育てネット 代表理事
委員	丸山 智正	一般社団法人 日本公園施設業協会 副会長
委員	矢藤 洋子	みーんなの公園プロジェクト

(順不同、敬称略)